

# ウェビナー (Webセミナー) のご案内

毎年H.C.R.において好評なセミナーを、Web上にて開催します。

事前登録制  
参加費無料！

## 10月21日～23日配信予定

### ●はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー ミニ

H.C.R.で好評の講師陣によるミニ解説動画を配信します。(→詳細は3ページ)

#### [主たる対象]

福祉機器ユーザーやその家族、支援専門職等

## 10月21日配信

### ●認知症高齢者へのアートを活用した 支援にみる可能性

H.C.R. 2019に併催した国際シンポジウムでは、認知症高齢者へのアートを活用した支援をメインテーマとし、英国スピーカー マリア・パーソンズ氏の協力によるシンポジウムを開催しました。

その際、同氏からは、五感を刺激する絵画、音楽、読書などのアートは、認知症高齢者にとってアプローチの有効性があり、不安や動揺、気分の落ち込みをやわらげるアクティビティになり得るという説明がありました。

その映像を今般初公開するとともに、コロナ禍における英国の認知症高齢者への支援内容に関する最新映像も追加して配信します。



#### スピーカー

マリア・パーソンズ氏  
(Creative Dementia Arts  
Network 理事)

#### [主たる対象]

認知症高齢者を支援する専門職、家族など

## 10月22日ライブ配信

### ●ニューノーマル時代の福祉とICT ～時間と空間を越える福祉へ～

コロナ禍の影響によって障害のある人や高齢の人の生活にもさまざまな変化が求められるなか、身の回りにおけるICTが、場所や時間的な制約を越えて役立ちます。

たとえば、外出や面会が難しい場合でも、遠隔コミュニケーションアプリを用いて人と会話しながら一緒に活動できます。スマートスピーカーを用いれば、ベッドサイドからでも声だけで通話を始められ、さらには家電の操作やオンラインショッピングなど、インターネットを通じたサービスが利用できます。時間的な制約を受けない支援(見守り)環境をつくるには、カメラやセンサーなどのIoT技術が役立ちます。人工知能を応用し、より個別のニーズに合わせた支援の試みも始まっています。

本セミナーでは、そうしたニューノーマル時代における福祉に関する以下の3つをテーマに、身の回りにおけるICTを活用したこれからの支援について考えます。

- (1) コミュニケーションは施設を越える
- (2) 時間を越えて支える～カメラ・センサーなどのIoT技術の利用～
- (3) サービスの多様化を支えるAI



#### 講師

巖淵 守氏  
(早稲田大学  
人間科学学術院 教授)



#### 講師

中邑 賢龍氏  
(東京大学  
先端科学技術研究センター 教授)

#### [主たる対象]

福祉機器ユーザーやその家族、支援専門職など

## 10月23日配信

### ●新型コロナウイルスに負けないための 福祉施設環境整備のポイント

要介護高齢者や障害者が利用している全国の各種福祉施設においては、国内の新型コロナウイルス感染症発生後、各施設なりの対策をすすめ、さまざまな感染防止に努めてきました。

利用者や職員がともに密にならない施設内環境づくりや定期換気・除菌清掃などはもちろんのこと、来訪・面会希望者に対してもリモートでの面会にて実施するなど、各種の取り組みをすすめてきました。そうした福祉現場のたゆまぬ工夫と努力は、一部の海外諸国の福祉現場と比較しても、感染を抑えるという面で成果をあげているといえます。

コロナ禍の本格化から半年が経過し、施設関係者はこれから秋～冬に向けてインフルエンザ対策も講じつつさらなる留意をしていく必要があります。日本の福祉施設における感染防止対応が有効であった点の解説と、今後もお福祉施設関係者が引き続き留意して取り組まなければならない感染症防止対策のポイントについて解説します。



#### 講師

中原 英臣氏  
(医学博士、新渡戸文化短期大学  
名誉学長)

#### [主たる対象]

要介護高齢者や重度の障害のある人が利用している福祉施設の役職員

## 11月配信予定

### ●就労をめざす障害のある人に伝えたい最新動向 ～在宅就労等多様な可能性を展望して～

法定雇用率がさらに引き上げとなる来年に向け、障害のある人の雇用・就労を一層すすめるため、コロナ禍の現状や影響もふまえた今後の雇用環境のあり方などについて、その展望、期待などについて講演します。

とくに、一般企業においても在宅勤務など多様な働き方が増えている昨今、障害のある方の在宅就労・在宅勤務の可能性や展望についてふれつつ、その際に役立つIT活用についても例を交え、お話する予定です。



#### 講師

阿部 一彦氏  
(日本身体障害者団体連合会 会長)

#### [主たる対象]

障害当事者や家族、障害のある人を雇用したいと考える企業関係者

### ●在宅介護サービスの人材定着に 資するICT活用について

在宅介護サービス事業所の従事者の離職が多い中、ICTの活用によって業務の効率化などを図って働く環境を改善し、向上させることが可能であ

り、そのことは離職防止の効果につなげることも可能であるという方向性などについて解説します。



#### 講師

竹下 康平氏  
(株式会社ビーブリット 代表取締役)

#### [主たる対象]

人材定着を課題とする在宅介護サービス事業所関係者

### ●障害者雇用をすすめる ～企業に役立つ募集・定着のワンポイント～

障害者雇用率が2021年3月に2.3%へと引き上げが予定されていますが、その雇用を一層促進するため、企業向けのワンポイントアドバイスを解説します。

特に、企業が障害のある人を雇用するうえでの募集上のポイントや、障害のある人の勤務にあたり社員の理解や意識醸成も含めた働きやすい職場環境づくりのあり方、合理的配慮の具体例、また、定着のための支援・サポートのあり方などについて、精神障害のある人の雇用の場合など4本の短編動画で解説します。

#### 講師

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

#### [主たる対象]

障害のある人を雇用したいと考える企業関係者

## 先行配信予定

### ●一般家庭の介護で腰痛にならないための 基本技術

介護をされている方がたにとって、腰痛は大きな問題です。腰痛は、住宅改修や福祉機器の活用、介護者の体力改善、そして正しい介護技術を身につけることで予防することができます。特に、福祉機器の活用は腰痛予防に有効ですが、どうしても介護者の身体を使わなければならない介護場面もあります。身体を使って介護を行うときに腰痛を起こさないためには、ボディメカニクスの原理を理解し、活用することが大切です。ボディメカニクスは、身体に関わる力学のことをいいます、体験により負担が軽くなることを実感することができるため、映像を見ながら体験いただけるよう解説します。

※本映像は過年度のH.C.R.でのセミナー映像を活用し、実演部分をふくめ、わかりやすく再編集して初配信するものです。



#### 講師

青柳 佳子氏  
(浦和大学短期大学部介護福祉科  
特任教授)

#### [主たる対象]

家族などの介護者や介護専門職

これらのウェビナーを視聴するにあたっては、事前登録が必要な場合があります。H.C.R.Webサイトにて詳細を案内しますので、ご確認のうえ、ぜひご視聴ください！